

科目名	一般臨床医学				担当者	吉川 崇倫			
単位数	4	時間数	80	年次	3	履修期	前期	授業方法	講義
【講義内容・目的】									
臨床医学は「個人の疾病」を研究対象とする学問である。患者を理解し、正しく診断して適切な治療を行うために必要となるのは、ていねいな医療面接と入念な身体診察である。									
本講義は、診察の基本的事項と内科疾患を中心に学ぶ。柔道整復師が臨床現場で注意を払わなければならない症状・所見の理解を深めることを目的とする。									
【実務経験】									
【成績評価方法】									
定期試験素点のみで評価する。									
【注意事項】									
毎回の講義内容を必ず復習するように努力してください。									
【講義計画】									
1	診察概論・医療面接	24	内分泌疾患(総論・下垂体・甲状腺等)						
2	視診(体型・姿勢・栄養状態・精神状態)	25	内分泌疾患(副腎皮質・褐色細胞腫等)						
3	視診(異常運動・歩行・皮膚の状態)	26	血液・造血器疾患(総論・各貧血)						
4	視診(顔面・頸部・胸部・腹部)	27	血液・造血器疾患(各貧血)						
5	視診(背部・腰部・上肢・下肢)	28	(白血病・悪性リンパ腫・出血傾向)						
6	打診・聴診	29	腎疾患(総論・腎不全)						
7	触診	30	腎疾患(糸球体疾患・間質の疾患等)						
8	生命徴候	31	尿路疾患(尿路感染症・泌尿器科的疾患等)						
9	神経系の復習	32	神経疾患(総論)						
10	感覚検査	33	神経疾患(脳血管障害)						
11	反射検査	34	神経疾患(神経変性疾患等)						
12	臨床症状(発熱・出血傾向・意識障害等)	35	膠原病(総論・関節リウマチ)						
13	臨床症状(意識障害・チアノーゼ・浮腫等)	36	膠原病(SLE・強皮症・皮膚筋炎)						
14	呼吸器疾患(総論・気管支炎・肺炎)	37	膠原病(シェーグレン・リウマチ熱等)						
15	呼吸器疾患(気管支喘息・COPD)	38	まとめ						
16	呼吸器疾患(肺癌・気胸等)		定期試験						
17	循環器疾患(総論・心不全)	39	総復習						
18	循環器疾患(虚血性心疾患・心臓弁膜症)	40	総復習(消化器疾患)						
19	循環器疾患(心臓弁膜症・先天性心疾患)								
20	消化器疾患(総論・消化管疾患・肝疾患)								
21	消化器疾患(胆疾患・膵疾患)								
22	代謝疾患(総論・糖尿病)								
23	(脂質異常症・メタボリック・痛風)								
教科書	一般臨床医学 改訂第3版				参考書				

科目名	リハビリテーション医学(午前コース)				担当者	徳森 公彦			
単位数	2	時間数	40	年次	3	履修期	前期	授業方法	講義
【講義内容・目的】									
<p>広くリハビリテーションの意味を理解し、柔道整復師として地域医療や地域発展に貢献するための基本的な知識と態度の獲得を目標とする。また、リハビリテーション医療の評価、治療を概観し、その対象疾患について、病能、障害、リハビリテーション支援の方法を学ぶ。</p>									
【実務経験による特色】									
理学療法(リハビリテーション)臨床業務の経験を基に、具体的な患者像を提示して授業を進める。									
【成績評価方法】									
①授業態度(課題への取り組み態度)10% ②筆記試験 90%									
【注意事項】									
毎回、次週の講義ノートを配るので、教科書の該当部分を読み、予習しておくこと。									
【講義計画】									
1	リハビリテーションの理念								
2	リハビリテーションの対象と障害者の実態								
3	障害の階層とアプローチ								
4	リハビリテーション評価学(ADL まで)								
5	リハビリテーション評価学(運動失調まで)								
6	リハビリテーション障害学と治療学(障害学)								
7	リハビリテーション障害学と治療学(治療学)								
8	リハビリテーション医学の関連職種								
9	リハビリテーション治療技術(理学療法)								
10	リハビリテーション治療技術(作業・言語)								
11	リハビリテーション治療技術(補装具)								
12	高齢者のリハビリテーション(認知症まで)								
13	高齢者のリハビリテーション(脳卒中まで)								
14	運動器のリハビリテーション(骨折)								
15	運動器のリハビリテーション(骨粗鬆症、捻挫)								
16	運動器のリハビリテーション(上・下肢損傷後症候群)								
17	運動器のリハビリテーション(腰痛、アキレス腱断裂)								
18	障害者スポーツ								
19	全範囲の振り返り								
	定期試験								
20	試験解説、まとめ								
教科書	リハビリテーション医学 第4版				参考書				

科目名	リハビリテーション医学(午後コース)					担当者	後藤 力			
単位数	2	時間数	40	年次	3	履修期	前期	授業方法	講義	
【講義内容・目的】										
リハビリテーション医療の評価、治療を概観し、リハビリテーションの対象疾患について、病能、障害、リハビリテーションの方法を教授する。 「リハビリテーション医学」では、実学としてではなく、純粋な学問としてとらえ、以後の専門科目でその知識が活用できるように理解することを目標とする。										
【実務経験による特色】										
整形外科での実務経験をもとに、実体験を踏まえながら講義する。										
【成績評価方法】										
定期試験の成績で判定する。										
【注意事項】										
講義では、個人情報に係る資料も提示する。 その取扱には十分注意し、学外でみだりに他言しないように心がけること。										
【講義計画】										
1	リハビリテーション医学総論									
2	リハビリテーション基礎医学:障害学									
3	リハビリテーション基礎医学:治療学									
4	リハビリテーション評価学:身体計測と関節可動域測定法									
5	リハビリテーション評価学:MMT と中枢性障害									
6	リハビリテーション評価学:心理評価とADL									
7	リハビリテーション評価学:電気神経生理学的検査と画像診断									
8	リハビリテーション治療学:理学療法と作業療法									
9	リハビリテーション治療学:補装具と言語治療									
10	リハビリテーションの実際:脳卒中 1									
11	リハビリテーションの実際:脳卒中 2									
12	リハビリテーションの実際:脊髄損傷と小児疾患									
13	リハビリテーションの実際:切断と末梢神経障害									
14	リハビリテーションの実際:関節リウマチ									
15	リハビリテーションの実際:整形外科疾患 1									
16	リハビリテーションの実際:整形外科疾患 2									
17	リハビリテーションの実際:心疾患と呼吸器疾患									
18	リハビリテーションの実際:老人のリハビリテーション									
19	リハビリテーションの実際:地域リハビリテーション									
	定期試験									
20	テストのフィードバック									
教科書	リハビリテーション医学 改訂第3版					参考書	適宜紹介する			

科目名	柔道整復術の適応				担当者	吉川 崇倫			
単位数	2	時間数	40	年次	3	履修期	後期	授業方法	講義
【講義内容・目的】									
適正な病態把握に必要な知識を身に付け、整形外科医や他のチームスタッフとの連携でき柔道整復師になることを目的とする。									
【実務経験】									
【成績評価方法】									
定期試験で評価する。									
【注意事項】									
既習事項である整形外科学、外科学との関連を深めながら講義を進めるように留意する。									
【講義計画】									
1	オリエンテーション				18	JPTEC			
2	柔道整復術の適否を考える				19	EC・CPR			
3	内臓疾患の投影を疑う疼痛				20	応急処置			
4	腰痛を伴う疾患								
5	化膿性の炎症								
6	軟部組織の圧迫損傷								
7	血流障害を伴う損傷								
8	末梢神経損傷を伴う損傷								
9	脱臼骨折								
10	外出血を伴う損傷								
11	病的骨折および脱臼								
12	意識障害を伴う損傷								
13	脊髄症状のある損傷								
14	呼吸運動障害を伴う損傷								
15	内臓損傷の合併が疑われる損傷								
	定期試験								
16	まとめ								
17	高エネルギー外傷								
教科書	(公社)全国柔道整復学校協会 医療の中の柔道整復 南江堂				参考書				

科目名		保健体育Ⅱ				担当者	田中 健之		
単位数	2	時間数	80	年次	3	履修期	前期	授業方法	実習
【講義内容・目的】									
礼法、受け身、打ち込み、乱取、投げの形(手技、腰技、足技) 初段レベルの実力を有することを目標とする。									
【実務経験による特色】									
【成績評価方法】									
認定実技審査にて評価する。									
【注意事項】									
【講義計画】									
1	投げの形・手技(背負投)・打ち込み・乱取				24	投げの形(手技)・打ち込み・乱取			
2	投げの形・手技(背負投)・打ち込み・乱取				25	投げの形(手技)・打ち込み・乱取			
3	投げの形・手技(肩車)・打ち込み・乱取				26	投げの形(手技)・打ち込み・乱取			
4	投げの形・手技(肩車)・打ち込み・乱取				27	投げの形(腰技)・打ち込み・乱取			
5	投げの形・腰技(浮腰)・打ち込み・乱取				28	投げの形(腰技)・打ち込み・乱取			
6	投げの形・腰技(浮腰)・打ち込み・乱取				29	投げの形(腰技)・打ち込み・乱取			
7	投げの形・腰技(払腰)・打ち込み・乱取				30	投げの形(腰技)・打ち込み・乱取			
8	投げの形・腰技(払腰)・打ち込み・乱取				31	投げの形(足技)・打ち込み・乱取			
9	投げの形・腰技(釣込腰)・打ち込み・乱取				32	投げの形(足技)・打ち込み・乱取			
10	投げの形・腰技(釣込腰)・打ち込み・乱取				33	投げの形(足技)・打ち込み・乱取			
11	投げの形・腰技(釣込腰)・打ち込み・乱取				34	投げの形(足技)・打ち込み・乱取			
12	投げの形・足技(送足払)・打ち込み・乱取				35	総合練習(礼法・受け身・投げの形・乱取)			
13	投げの形・足技(送足払)・打ち込み・乱取				36	総合練習(礼法・受け身・投げの形・乱取)			
14	投げの形・足技(送足払)・打ち込み・乱取				37	総合練習(礼法・受け身・投げの形・乱取)			
15	投げの形・足技(送足払)・打ち込み・乱取				38	総合練習(礼法・受け身・投げの形・乱取)			
16	投げの形・足技(支釣込足)・打ち込み・乱取					定期試験			
17	投げの形・足技(支釣込足)・打ち込み・乱取				39	復習			
18	投げの形・足技(支釣込足)・打ち込み・乱取				40	復習			
19	投げの形・足技(支釣込足)・打ち込み・乱取								
20	投げの形・足技(内股)・打ち込み・乱取								
21	投げの形・足技(内股)・打ち込み・乱取								
22	投げの形・足技(内股)・打ち込み・乱取								
23	投げの形(手技)・打ち込み・乱取								
教科書		見る・学ぶ・教える イラスト柔道の形				参考書			

科目名	臨床柔道整復学Ⅱ					担当者	古家 陽介			
単位数	2	時間数	40	年次	3	履修期	後期	授業方法	講義	
【講義内容・目的】 下肢・体幹の疾患における臨床対応についての知識・技術の習得を目指す。										
【実務経験による特色】										
【成績評価方法】 定期試験素点のみで評価する。										
【注意事項】										
【講義計画】										
1	頸部:運動機能									
2	頸部:疾患									
3	頸部:検査法									
4	肩部:運動機能									
5	肩部:疾患									
6	肩部:検査法									
7	腰部:運動機能									
8	腰部:疾患									
9	腰部:検査法									
10	股関節部:運動機能									
11	股関節部:疾患									
12	股関節部:検査法									
13	膝関節部:運動機能									
14	膝関節部:疾患									
15	膝関節部:検査法									
	定期試験									
16	足関節部:運動機能									
17	足関節部:疾患									
18	足関節部:検査法									
19	まとめ									
20	まとめ									
教科書	柔道整復学 理論編・実技編					参考書				

科目名	臨床柔道整復学Ⅲ					担当者	古家 陽介			
単位数	2	時間数	40	年次	3	履修期	後期	授業方法	講義	
【講義内容・目的】 臨床に対応できる能力を養うため、専門領域に偏らず幅広い知識を身に着けることを目的とする。										
【実務経験による特色】 本校付属の接骨院での実務経験をもとに、実体験を踏まえながら講義する。										
【成績評価方法】 定期試験素点のみで評価する。										
【注意事項】										
【講義計画】										
1	鑑別に診察の進め方									
2	頭・頸部の視診について									
3	体幹部の視診									
4	打診・聴診・視診について									
5	感覚・反射検査について									
6	呼吸器疾患の鑑別									
7	循環器・消化器疾患の鑑別									
8	内分泌疾患の鑑別									
9	血液・造血疾患の鑑別									
10	腎・尿路疾患の鑑別									
11	神経疾患の鑑別									
12	感染症の鑑別									
13	リウマチ・膠原病・アレルギー疾患の鑑別									
14	萎縮・代謝障害について									
15	循環器について									
	定期試験									
16	炎症・進行性病変について									
17	免疫異常について									
18	アレルギーについて									
19	腫瘍について									
20	先天性異常について									
教科書	柔道整復学(理論編、実技編)包帯固定学					参考書				

科目名	臨床柔道整復学Ⅳ					担当者	古家 陽介		
単位数	4	時間数	80	年次	3	履修期	前期	授業方法	講義
【講義内容・目的】 臨床に対応できる能力を養うため、機能解剖の観点から考察できる能力を養うことを目的とする。									
【実務経験による特色】 本校付属の接骨院での実務経験をもとに、実体験を踏まえながら講義する。									
【成績評価方法】 定期試験素点のみで評価する。									
【注意事項】 プリントを配布しますが、教科書を必ず持参すること。									
【講義計画】									
1	人体解剖学概説				26	神経系	⑥末梢神経(脊髄神経)		
2	人体解剖学概説				27	神経系	⑦伝導路		
3	運動器系 ①総論				28	神経系	⑧自律神経		
4	運動器系 ②体幹の運動器				29	感覚器	①視覚器		
5	運動器系 ③上肢の運動器				30	感覚器	②聴覚平衡器		
6	運動器系 ④下肢の運動器				31	感覚器	③その他		
7	運動器系 ⑤頭頸部の運動器				32	体表解剖			
8	脈管系 ①総論・心臓				33	運動学	①第1章～3章		
9	脈管系 ②動脈				34	運動学	②第5章～7章		
10	脈管系 ③動脈				35	運動学	③第8章		
11	脈管系 ④静脈				36	運動学	④第9章～10章		
12	脈管系 ⑤胎児循環				37	運動学	⑤第11章～12章		
13	脈管系 ⑥リンパ系				38	総復習			
14	内臓系 ①消化器					前期末試験			
15	内臓系 ②消化器				39	総復習			
16	内臓系 ③呼吸器				40	まとめ			
17	内臓系 ④泌尿器								
18	内臓系 ⑤男性生殖器								
19	内臓系 ⑥女性生殖器								
20	内分泌系								
21	神経系 ①基礎								
22	神経系 ②中枢神経								
23	神経系 ③末梢神経(脳神経)								
24	神経系 ④末梢神経(脳神経)								
25	神経系 ⑤末梢神経(脊髄神経)								
教科書	解剖学 改訂第2版 運動学				参考書				

科目名	臨床柔道整復学V				担当者	古家 陽介			
単位数	4	時間数	80	年次	3	履修期	後期	授業方法	講義
【講義内容・目的】 臨床に対応できる能力を養うため、機能解剖・生理機能の観点から考察できる能力を養うことを目的とする。									
【実務経験による特色】 本校付属の接骨院での実務経験をもとに、実体験を踏まえながら講義する。									
【成績評価方法】 定期試験素点のみで評価する。									
【注意事項】									
【講義計画】									
1	外傷と利尿障害	24	感覚器 ③体性感覚器						
2	内分泌	25	筋損傷について						
3	外傷と内分泌の関連性	26	体表解剖学						
4	神経系 ①総論	27	外傷と感覚について						
5	外傷の治癒と内分泌	28	運動学 ①テコ・運動の法則						
6	神経系 ②脳	29	外傷と痛みについて						
7	骨折の治癒経過	30	運動学総復習 ②姿勢・歩行						
8	神経系 ③脊髄		定期試験						
9	骨折の治癒経過と内分泌	31	高齢者の生理的特徴と外傷						
10	神経系 ④脳神経	32	運動学総復習 ③運動発達・運動学習						
11	外傷と体液の関連性	33	競技者の生理的特徴と外傷						
12	神経系 ⑤脊髄神経	34	運動学総復習 ④反射・神経・運動感覚						
13	外傷と浮腫	35	外傷と病理的検査						
14	神経系 ⑥脊髄神経	36	総復習						
15	外傷による神経損傷(疾患)	37	総復習						
16	神経系 ⑦伝導路	38	総復習						
17	外傷による神経損傷(症状)	39	まとめ						
18	神経系 ⑧自律神経系	40	まとめ						
19	外傷による神経損傷(治癒機序)								
20	感覚器 ①視覚器								
21	外傷による神経損傷(後療法)								
22	感覚器 ②聴覚平衡器・味覚器・嗅覚器								
23	外傷による神経損傷(頭部)								
教科書	解剖学 改訂第2版 生理学 改定第3版 運動学 改訂第3版				参考書				

科目名	臨床柔道整復学VI					担当者	古家 陽介		
単位数	4	時間数	80	年次	3	履修期	通期	授業方法	講義
【講義内容・目的】									
臨床に対応できる能力を養うため、各疾患について総合的に対応できる能力を身に付けることを目的とする。また、物理療法を中心に後療法の考え方を学び、早期治癒に導くための知識を身に付ける柔道整復理論全域にわたる知識の習得を目指す。									
【実務経験による特色】									
本校付属の接骨院での実務経験をもとに、実体験を踏まえながら講義する。									
【成績評価方法】									
定期試験の素点のみで評価する。									
【注意事項】									
【講義計画】									
1	痛みの基礎				22	指部骨折への対応			
2	骨折の損傷				23	小テスト			
3	関節の損傷				24	肩の脱臼への対応			
4	軟部組織の損傷				25	鎖骨の脱臼への対応			
5	小テスト				26	肘の脱臼への対応			
6	診察				27	手指部脱臼への対応			
7	整復法				28	肩部の軟部組織損傷への対応			
8	固定法				29	上腕部の軟部組織損傷への対応			
9	後療法①				30	小テスト			
10	後療法②					定期試験			
11	小テスト				31	肘部の軟部組織損傷への対応			
12	鎖骨骨折への対応				32	前腕部の軟部組織損傷への対応			
13	肩甲骨骨折への対応				33	手指部の軟部組織損傷への対応			
14	上腕骨近位部骨折への対応				34	小テスト			
15	上腕骨骨幹部骨折への対応				35	ケーススタディ(肩部)			
16	上腕骨遠位部骨折への対応				36	ケーススタディ(上腕部)			
17	小テスト				37	ケーススタディ(肘部)			
18	前腕骨近位部骨折への対応				38	ケーススタディ(前腕部部)			
19	前腕骨骨幹部骨折への対応				39	ケーススタディ(手部)			
20	前腕骨遠位部の骨折への対応				40	復習			
21	手部の骨折への対応								
教科書	柔道整復学理論編 改訂第6版					参考書			

科目名	応用柔道整復実技IV				担当者	長岡正樹・山田修平			
単位数	5	時間数	200	年次	3	履修期	通期	授業方法	実習
【講義内容・目的】 臨床現場において遭遇する主な外傷に対応できる能力(初検・整復・処置)を身につける。									
【実務経験による特色】 本校附属接骨院での実務経験等をもとに、実体験を踏まえながら講義する。									
【成績評価方法】 定期試験の素点のみで評価する。									
【注意事項】 指定の白衣上下、名札を必ず着用すること。									
【講義計画】									
1	外傷の初検(総論)				27	冠名包帯法			
2	外傷の初検(上肢)				28	上腕骨外科頸骨折固定法			
3	外傷の初検(下肢)				29	上腕骨外科頸骨折固定法			
4	患者介助法、助手の使い方(上肢)				30	鎖骨骨折固定法			
5	患者介助法、助手の使い方(下肢)				31	鎖骨骨折固定法			
6	鎖骨骨折整復				32	肩鎖関節脱臼固定法			
7	鎖骨骨折整復				33	肩鎖関節脱臼固定法			
8	上腕骨外科頸骨折整復				34	肩関節脱臼固定法			
9	上腕骨外科頸骨折整復				35	肩関節脱臼固定法			
10	前腕遠位端骨折整復				36	肘関節脱臼固定法			
11	前腕遠位端骨折整復				37	肘関節脱臼固定法			
12	肩鎖関節脱臼整復				38	前腕遠位端骨折固定法			
13	肩鎖関節脱臼整復					定期試験			
14	肩関節脱臼整復				39	前腕遠位端骨折固定法			
15	肩関節脱臼整復				40	前腕遠位端骨折固定法			
16	肘関節脱臼整復				41	中手骨骨折			
17	肘関節脱臼整復				42	中手骨骨折			
18	肩部の軟部組織損傷検査法				43	PIP 関節脱臼固定法			
19	肩部の軟部組織損傷検査法				44	下腿骨骨折固定法			
20	大腿部の軟部組織損傷検査法				45	下腿骨骨折固定法			
21	大腿部の軟部組織損傷検査法				46	アキレス腱断裂固定法			
22	膝関節部の軟部組織損傷検査法				47	アキレス腱断裂固定法			
23	膝関節部の軟部組織損傷検査法				48	足関節捻挫の固定法			
24	膝関節部の軟部組織損傷検査法				49	足関節捻挫の固定法			
25	下腿部の軟部組織損傷検査法				50	膝関節のテーピング			
26	基本包帯法				51	膝関節のテーピング			
教科書	柔道整復学・実技編第2版				参考書				

科目名	応用柔道整復実技Ⅳ				担当者	長岡正樹・山田修平			
単位数	5	時間数	200	年次	3	履修期	通期	授業方法	実習
【講義内容・目的】 臨床現場において遭遇する主な外傷に対応できる能力(初検・整復・処置)を身につける。									
【実務経験による特色】 本校附属接骨院での実務経験等をもとに、実体験を踏まえながら講義する。									
【成績評価方法】 定期試験にて評価する。									
【注意事項】 指定の白衣上下、名札を必ず着用すること。									
【講義計画】									
52	足関節のテーピング				76	臨床への応用(膝部疾患)			
53	足関節のテーピング				77	臨床への応用(膝部疾患)			
54	臨床への応用(所見)				78	臨床への応用(膝部疾患)			
55	臨床への応用(所見)				79	臨床への応用(膝部疾患)			
56	臨床への応用(整復)				80	臨床への応用(下腿部疾患)			
57	臨床への応用(整復)				81	臨床への応用(下腿部疾患)			
58	臨床への応用(固定)				82	臨床への応用(下腿部疾患)			
59	臨床への応用(固定)				83	臨床への応用(下腿部疾患)			
60	臨床への応用(運動療法)				84	臨床への応用(足部疾患)			
61	臨床への応用(運動療法)				85	臨床への応用(足部疾患)			
62	臨床への応用(肩部疾患)				86	臨床への応用(足部疾患)			
63	臨床への応用(肩部疾患)				87	臨床への応用(足部疾患)			
64	臨床への応用(肩部疾患)				88	臨床への応用(頸部疾患)			
65	臨床への応用(肩部疾患)				89	臨床への応用(頸部疾患)			
66	臨床への応用(肘部疾患)				90	臨床への応用(頸部疾患)			
67	臨床への応用(肘部疾患)				91	臨床への応用(頸部疾患)			
68	臨床への応用(肘部疾患)				92	臨床への応用(体幹部疾患)			
69	臨床への応用(肘部疾患)				93	臨床への応用(体幹部疾患)			
70	復習				94	臨床への応用(体幹部疾患)			
	定期テスト				95	臨床への応用(体幹部疾患)			
71	臨床への応用(手部疾患)				96	臨床への応用(体幹部疾患)			
72	臨床への応用(手部疾患)				97	臨床への応用(股関節部疾患)			
73	臨床への応用(手部疾患)				98	臨床への応用(股関節部疾患)			
74	臨床への応用(手部疾患)				99	臨床への応用(股関節部疾患)			
75					100	臨床への応用(股関節部疾患)			
教科書	柔道整復学・実技編第2版)				参考書				